

2027年3月期 第1四半期 決算説明資料

対象期間: 2026年4月1日－6月30日

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社(8242)
2026年8月4日



本資料に記載された情報については、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。
万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いませんので、ご承知おき下さい。
また、本資料の著作権は全て当社に帰属し、著作権法に定める私的利用の範囲を超えて無断で、複写・転載等することを禁じます。

決算ダイジェスト

2027年3月期 第1四半期 業績

▶ 阪急本店の改装効果や高額品需要の取り込みにより百貨店事業が伸長し全体を牽引。営業利益は会社想定を上回る進捗

総額売上高	営業利益	四半期純利益
2,907 億円	73 億円	103 億円
対前年 +174 億円	+18 億円	+63 億円

2027年3月期 業績予想(期初から変更なし)

▶ 先行きの事業環境は引き続き不透明なマイナス要因(中東情勢・空港免税への移行・消費税減税前の買い控え)が懸念されることから、通期業績予想および年間配当予想は期初想定を据え置き

総額売上高	営業利益	当期純利益
12,450 億円	325 億円	230 億円
対前年 +826 億円	+1 億円	▲70 億円

© 2026 H2O RETAILING CORPORATION 2

- 先ず、今回の決算のダイジェストからご説明いたします。
- 第1四半期は、百貨店事業において、阪急本店の改装効果に加え、国内・インバウンドともに高額品需要を着実に取り込めたことから、増収増益となりました。
- 営業利益は前年から18億円増加し73億円となり、会社想定を上回る進捗となっています。
- 第1四半期は会社想定を上回る進捗となりましたが、中東情勢や空港免税への移行、消費税減税前の買い控えなど、今後の事業環境には依然として不透明な要素が残っています。そのため、現時点では通期業績予想を据え置いています。

INDEX

1. 2027年3月期 第1四半期 業績
2. 2027年3月期 業績予想
3. Appendix

- ここからは、
「2027年3月期 第1四半期 業績」
「2027年3月期 業績予想」
の順にご説明いたします。

- ▶ 好調な百貨店事業が牽引し増収増益。営業利益は百貨店・商業施設事業を中心に会社想定を上回る進捗
- ▶ 営業増益に加え、投資有価証券売却益の計上により四半期純利益は大幅に増加

(百万円)	25年度 1Q	26年度 1Q	増減	
総額売上高	273,290	290,696	+17,406 +6.4%	↑ +171億円 百貨店事業 国内/インバウンド売上伸長
売上高	163,644	164,541	+896 +0.5%	
売上総利益	73,221	76,273	+3,052	↓ +3億円 販売手数料増
販管費	67,716	68,995	+1,278	↓ +2億円 賃借料増 ↓ +2億円 広告宣伝費増
営業利益	5,504	7,278	+1,773	
営業外収益・費用	637	789	+152	↑ +1億円 受取配当金増
経常利益	6,141	8,068	+1,926	
特別損益	125	3,862	+3,736	↑ +52億円 投資有価証券売却益増 ↓ ▲9億円 補助金収入減 ↓ ▲5億円 固定資産除却損増
法人税等、非支配株主損益	2,286	1,665	▲621	
四半期純利益	3,980	10,265	+6,284	

- 連結業績についてご説明いたします。
- 第1四半期は百貨店事業が連結全体を牽引し、増収増益となりました。
- 営業利益は百貨店事業に加え商業施設事業も想定を上回って推移したことから、会社想定を20億円弱上回って進捗しております。
- 営業利益の増加に加え、投資有価証券売却益を計上したことから、四半期純利益は大幅な増益となりました。

	(百万円)	25年度 1Q	26年度 1Q	増減	増減要因
百貨店	総額売上高	139,346	156,422	+17,075 +12.3%	↑ 全店売上対前年+12.4%
	営業利益	3,453	5,762	+2,309	↑ 増収に伴い増益
食品	総額売上高	104,951	101,211	▲3,739 ▲3.6%	↓ 食品スーパー既存店売上対前年▲1.5%・店舗数減
	営業利益	2,314	1,745	▲568	↓ 減収に伴い減益
商業施設	総額売上高	19,051	22,734	+3,683 +19.3%	↑ 寧波阪急好調により増収増益
	営業利益	1,552	1,833	+280	
その他	総額売上高	9,941	10,328	+387 +3.9%	↑ 子会社売上増
	営業利益	10,071	7,994	▲2,076	↓ H2Oにおける子会社配当収入減(連結消去対象)
調整額	営業利益	▲11,886	▲10,057	+1,828	↑ 上記配当収入の連結消去額減
合計	総額売上高	273,290	290,696	+17,406 +6.4%	—
	営業利益	5,504	7,278	+1,773	—

* 2026年度1Qよりセグメント区分を一部変更(阪急キッチンエール関西を「食品事業」から「その他事業」へ、寧波阪急等の中国の事業会社を「その他事業」から「商業施設事業」へ移管)。本資料記載の過年度セグメント業績(業績予想の比較対象含む)は全て新区分に組み替えて表示。

- 続いてセグメント別業績についてですが、当第1四半期よりセグメント区分を変更しております。
- 詳細はスライド下部に記載の通りであります。本決算説明資料上のセグメント業績は全て新セグメント区分で記載しています。
- セグメント毎の業績については、次のスライドから説明いたします。

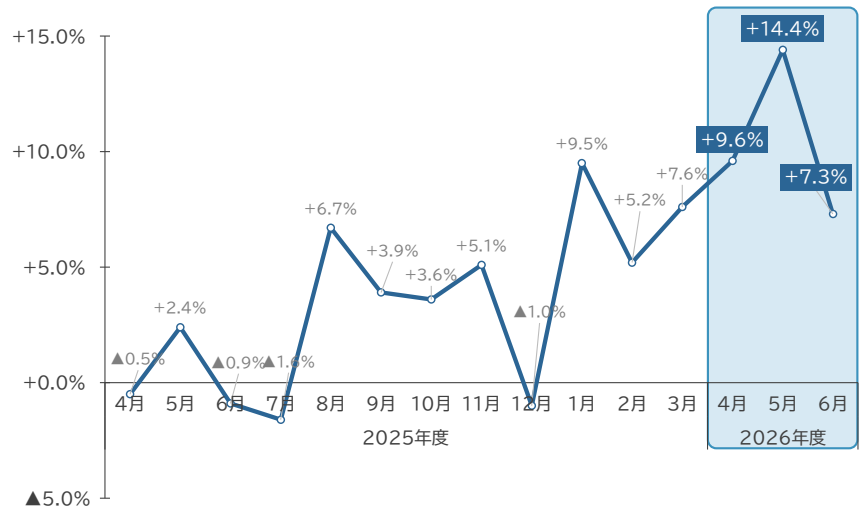
- ▶ 阪急本店を中心とする高額品売上の伸長(国内・インバウンド売上ともに好調)により、全店・国内売上高は過去最高を更新
- ▶ 売上増による売上総利益の増加が売上連動経費の増加や益率の低下影響を吸収し、営業利益は会社想定を上回る進捗

(百万円)	25年度 1Q	26年度 1Q	増減	
総額売上高	139,346	156,422	+17,075 +12.3%	↑ +180億円 全店売上(+12.4%) +127億円 国内売上(+10.5%) +53億円 インバウンド売上(+21.7%)
売上高	41,666	44,938	+3,272 +7.9%	
売上総利益	30,481	33,494	+3,012	
販管費	27,027	27,731	+703	↑ +37億円 売上増 ↓ ▲7億円 粗利益率低下
人件費	7,693	7,703	+9	
賃借料	6,535	6,816	+281	↓ +6億円 売上連動による増加
広告宣伝費	1,031	1,225	+193	
減価償却費	1,704	1,559	▲145	↓ +2億円 装飾・宣伝費増(阪急本店)
委託作業費	2,619	2,557	▲62	
販売手数料	2,172	2,523	+351	
その他	5,269	5,345	+75	
営業利益	3,453	5,762	+2,309	

- 先ず、百貨店事業についてです。
- 3月に改装オープンした阪急本店を中心に、国内・インバウンド売上の双方で高額品売上を中心に売上が伸長したことで、全店売上・国内売上ともに過去最高を更新しました。
- 売上増による売上総利益の増加が、販売手数料などの売上連動経費の増加や高額品シェアアップによる粗利益率の低下影響を上回りました。
- 結果として、営業利益は前年から23億円の増加、会社想定を10億円弱上回って進捗しております。

- ▶ 1Qは阪急本店・阪神梅田本店の改装効果により大きく伸長し、全店ベースの国内売上は対前年11%増(過去最高を更新)
- ▶ 資産効果を背景に富裕層の高額品ニーズが伸長

阪急阪神百貨店 – 国内売上推移(前年増減率)



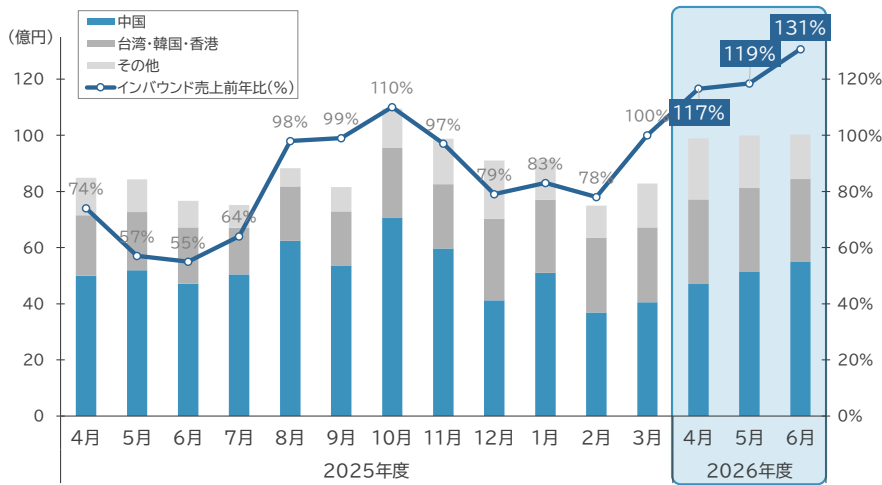
■ 国内売上/与件(増減要因)

	前年増減率	与件(増減要因)
26.1Q	+10.5%	↑ 両本店が好調 ↑ 前年の改装工事に伴う 売場縮小影響の裏返し
25.4Q	+7.6%	↑ 押し上げ+1.7pt ↓ 改装影響等▲1.0pt (阪急本店)
25.3Q	+2.2%	↑ 押し上げ+0.6pt ↓ 改装影響等▲2.2pt (阪急本店)
25.2Q	+2.8%	↑ 阪神タイガースセール 等+2.6pt ↓ 改装影響▲2.3pt (阪急本店)
25.1Q	+0.4%	↓ 改装影響▲1.5pt (阪神梅田本店・阪急本店)

- 百貨店国内売上の直近動向についてご説明いたします。
- 左側のグラフは国内売上の月別推移を、右側の表は増減要因となる営業与件を記載しています。
- 第1四半期は店舗別では、阪急本店が16%増、阪神梅田本店が22%増と両本店が改装効果によりそれぞれ前年から大きく伸長しました。全体としても前年から11%増加し、過去最高売上を更新しました。
- 商品カテゴリー全般で売上は好調に推移しましたが、特にラグジュアリーや宝飾・時計などの高額品が全体を牽引しました。背景には、株高などによる資産効果があると見ています。

- ▶ 阪急本店の改装・円安効果(客単価伸長)により、インバウンド売上は対前年22%増の約300億円
- ▶ VIP施策(ストアアテンド体制・サービス強化)が奏功し、VIP売上シェアが約50%へ上昇。さらなるVIP層の拡大・深化により、外部環境変化に強く、成長性を伴ったインバウンド売上基盤の構築を目指す

阪急阪神百貨店ーインバウンド売上推移(億円、前年比)



■ インバウンド売上/VIP指標(四半期別)

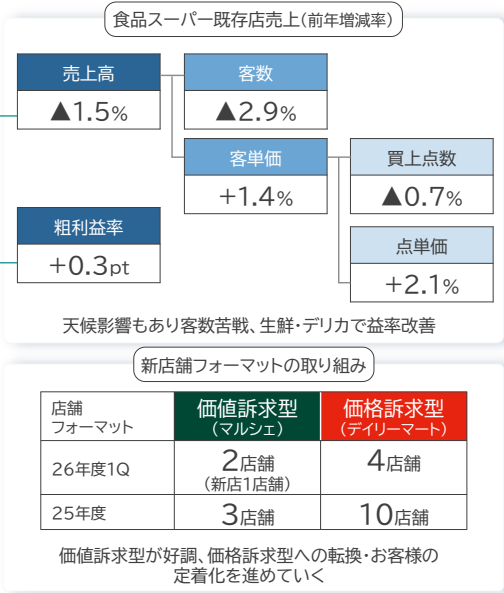
	インバウンド売上 [前年比]	VIP 売上シェア (VIP売上/ インバウンド売上)	VIP 会員数
26.1Q	299億円 [122%]	48% +14pt	5.7万人 +1.4万人
25.4Q	249億円 [86%]	48%	5.3万人
25.3Q	299億円 [95%]	40%	5.0万人
25.2Q	245億円 [84%]	34%	4.6万人
25.1Q	246億円 [61%]	34%	4.3万人

- ・ インバウンド売上の直近動向についてご説明いたします。
- ・ 左側のグラフは地域別のインバウンド売上推移を、右側の表はインバウンド売上とVIP顧客の指標をお示ししています。
- ・ 第1四半期のインバウンド売上は前年から22%増の約300億円となりました。
- ・ 阪急本店で改装オープンいたしました「HANKYU LUXURY」の売上押上げ効果に加え、円安を背景とした客単価の上昇も寄与しています。
- ・ また、これまで取り組んできた海外VIP顧客の拡大により、ストアアテンド体制やサービス強化の成果が表れ、インバウンド売上に占めるVIP売上シェアが48%とおおよそ半分を占めるようになりました。VIP会員数も前年同期比で1.4万人増加し、5.7万人まで拡大しています。
- ・ 今後もVIP顧客の拡大・定着を進めることで、為替等の外部環境変化に強く、同時に成長性もあるインバウンド売上基盤の構築を目指してまいります。

粗利益率の改善や経費抑制は一定の成果があったものの、客数減や前年の米特需からの反転に伴う売上減が響き、営業減益

(百万円)	25年度 1Q	26年度 1Q	増減
総額売上高	104,951	101,211	▲3,739 ▲3.6%
売上高	100,825	97,318	▲3,506 ▲3.5%
売上総利益	31,628	31,015	▲613
販管費	29,314	29,269	▲45
人件費	13,158	12,941	▲217
賃借料	4,933	4,914	▲18
広告宣伝費	580	608	+28
減価償却費	996	1,013	+16
委託作業費	1,265	1,392	+126
販売手数料	942	950	+8
その他	7,437	7,448	+10
営業利益	2,314	1,745	▲568

▲+5億円 SM粗利益率改善
▲11億円 売上減
▲外部人件費抑制
(店舗フォーマット転換、セルフレジ導入による人時生産性改善)



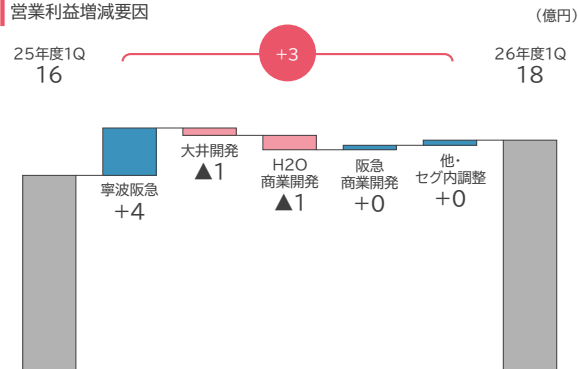
- 次に、食品事業についてご説明いたします。
- 食品スーパーの既存店売上は、客数の減少に加え、前年に加熱傾向のあった米需要の反動減もあり、前年同期比で1.5%減となりました。
- 粗利益率の改善や人件費を中心とした経費抑制には一定の成果があったものの、既存店売上のマイナス、閉店による店舗数減の影響をカバーするには至らず、営業減益となりました。
- 25年度にスタートした価値訴求・価格訴求型の新店舗フォーマットについては、第1四半期で6店舗の拡大となりました。
- 価値訴求型店舗は客単価上昇により好調に進捗しています。
- 一方、価格訴求型店舗は集客面では成果が見られるものの、客単価の伸びが想定を下回っており、フォーマット転換後の顧客定着に一定の時間を要することが課題として明確になりました。
- 今後は、「早期の顧客定着化」に向けた施策のブラッシュアップと仕組みづくりを進め、客数・客単価双方の改善に繋げてまいります。

商業施設

- ▶ 寧波阪急は引き続き富裕層の高額品ニーズが強く、対前年10%増を上回るペースで推移(*26.1Qより、その他セグから商業施設セグに移管)
- ▶ 大井開発(アワーズイン阪急)は客単価増で売上増も修繕費等の販管費増により減益

(百万円)	25年度1Q	26年度1Q	増減
総額売上高	19,051	22,734	+3,683 +19.3%
営業利益	1,552	1,833	+280

営業利益増減要因

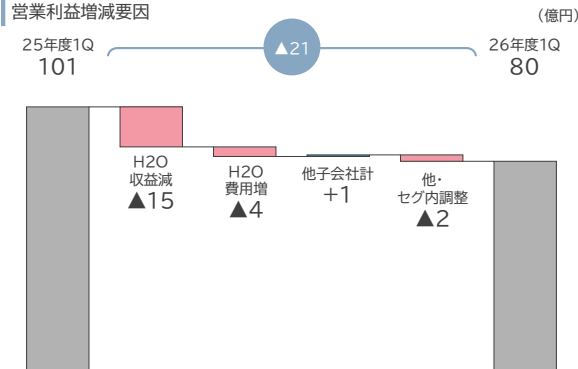


その他

- ▶ H2O(本社)を除く子会社は引き続き堅調に推移
- ▶ H2Oが子会社からの配当収入減(連結消去対象)、販管費増により営業減益

(百万円)	25年度1Q	26年度1Q	増減
総額売上高	9,941	10,328	+387 +3.9%
営業利益	10,071	7,994	▲2,076

営業利益増減要因



- 続いて、商業施設事業及びその他事業についてご説明いたします。
- 商業施設事業につきましては、当第1四半期より寧波阪急をその他事業から移管しております。寧波阪急は富裕層の高額品ニーズをしっかりと取り込んでおり、売上は前年を10%を上回るペースで推移しました。
- 大井開発が運営するアワーズイン阪急は、客単価の上昇により売上は増加したものの、客室改装に伴う費用の増加などにより営業減益となりました。
- その他事業では、H2Oリテイリングを除く子会社は堅調に推移しましたが、H2Oリテイリングにおける子会社からの配当収入の減少や販管費の増加により、セグメント全体では減益となりました。

INDEX

1. 2027年3月期 第1四半期 業績
2. 2027年3月期 業績予想
3. Appendix

- 最後に、「2027年3月期 業績予想」についてご説明いたします。

▶ 先行きの事業環境は引き続き不透明なマイナス要因(中東情勢・空港免税への移行・消費税減税前の買い控え)が懸念されることから、通期業績予想および年間配当予想は期初想定を据え置き

■ 連結業績予想

(百万円)	25年度 実績	26年度 業績予想	前年増減
総額売上高	1,162,431	1,245,000	+82,568 +7.1%
売上高	680,215	712,000	+31,784 +4.7%
営業利益	32,386	32,500	+113
経常利益	34,508	33,000	▲1,508
当期純利益	29,950	23,000	▲6,950
1株当たり 配当金(円)	46	48	+2

■ セグメント別総額売上高予想

(百万円)	25年度 実績	26年度 業績予想	前年増減	業績予想の前提(増減要因)
百貨店	621,037	683,500	+62,462 +10.1%	↑ 阪急本店改装効果 ↓ インバウンド売上減(中国影響)
食品	426,166	441,000	+14,833 +3.5%	↑ 新店舗フォーマット転換効果
商業施設	74,962	79,500	+4,537 +6.1%	↑ 寧波阪急の伸長
その他	40,264	41,000	+735 +1.8%	↑ 概ね前年並み

■ セグメント別営業利益予想

(百万円)	25年度 実績	26年度 業績予想	前年増減	業績予想の前提(増減要因)
百貨店	23,783	26,900	+3,116	
食品	10,852	11,000	+147	
商業施設	4,243	4,800	+556	
その他	6,296	800	▲5,496	↓ 先行投資費用(H2O) ↓ 子会社配当収入減
連結調整	▲12,788	▲11,000	+1,788	↑ 上記配当収入の連結消去額減

- 冒頭のダイジェストでもご説明しました通り、第1四半期は会社想定を上回る進捗となりましたが、中東情勢や11月に控える空港免税への移行、消費税減税前の買い控えなど、下期の事業環境には依然として不透明な要素が残っています。
- そのため、現時点におきましては通期の業績予想及び年間配当予想は期初予想を据え置いております。
- 私からの説明は以上です。ありがとうございました。

INDEX

1. 2027年3月期 第1四半期 業績
2. 2027年3月期 業績予想
3. Appendix

(百万円)	2025年度				2026年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
総額売上高	273,290	282,128	317,414	289,598	290,696			
売上高	163,644	169,379	182,840	164,350	164,541			
売上総利益	73,221	75,349	84,094	75,507	76,273			
販管費	67,716	68,999	70,683	68,387	68,995			
営業利益	5,504	6,350	13,410	7,120	7,278			
営業外収益・費用	637	▲79	695	868	789			
経常利益	6,141	6,271	14,106	7,989	8,068			
特別損益	125	▲644	11,875	▲10,389	3,862			
法人税等、非支配株主損益	2,286	2,698	3,911	▲3,371	1,665			
当期純利益	3,980	2,928	22,070	971	10,265			

(百万円)	上期			下期			通期		
	25年実績	26年予想	増減	25年実績	26年予想	増減	25年実績	26年予想	増減
総額売上高	555,418	586,500	+31,081	607,012	658,500	+51,487	1,162,431	1,245,000	+82,568
百貨店	286,578	311,000	+24,421	334,459	372,500	+38,040	621,037	683,500	+62,462
食品	213,014	217,500	+4,485	213,151	223,500	+10,348	426,166	441,000	+14,833
商業施設	36,042	39,000	+2,957	38,919	40,500	+1,580	74,962	79,500	+4,537
その他	19,782	19,000	▲782	20,482	22,000	+1,517	40,264	41,000	+735
売上高	333,024	342,500	+9,475	347,190	369,500	+22,309	680,215	712,000	+31,784
営業利益	11,855	10,000	▲1,855	20,531	22,500	+1,968	32,386	32,500	+113
百貨店	8,235	9,100	+864	15,547	17,800	+2,252	23,783	26,900	+3,116
食品	4,628	4,000	▲628	6,223	7,000	+776	10,852	11,000	+147
商業施設	2,373	2,100	▲273	1,869	2,700	+830	4,243	4,800	+556
その他	8,576	5,200	▲3,376	▲2,279	▲4,400	▲2,120	6,296	800	▲5,496
調整額	▲11,959	▲10,400	+1,559	▲829	▲600	+229	▲12,788	▲11,000	+1,788
経常利益	12,413	10,500	▲1,913	22,095	22,500	+404	34,508	33,000	▲1,508
当期純利益	6,909	13,500	+6,590	23,041	9,500	▲13,541	29,950	23,000	▲6,950

Appendix
セグメント別業績

		2025年度				2026年度			
(百万円)		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
百貨店	総額売上高	139,346	147,232	176,691	157,767	156,422			
	営業利益	3,453	4,782	9,549	5,997	5,762			
食品	総額売上高	104,951	108,063	111,860	101,291	101,211			
	営業利益	2,314	2,314	3,890	2,332	1,745			
商業施設	総額売上高	19,051	16,991	18,519	20,400	22,734			
	営業利益	1,552	821	1,283	585	1,833			
その他	総額売上高	9,941	9,841	10,342	10,139	10,328			
	営業利益	10,071	▲1,495	▲838	▲1,441	7,994			
調整額	営業利益	▲11,886	▲72	▲475	▲354	▲10,057			
合計	総額売上高	273,290	282,128	317,414	289,598	290,696			
	営業利益	5,504	6,350	13,410	7,120	7,278			

Appendix
セグメント別業績 – 百貨店セグメント

(百万円)	2025年度				2026年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
総額売上高	139,346	147,232	176,691	157,767	156,422			
売上高	41,666	44,990	53,456	45,232	44,938			
売上総利益	30,481	32,063	38,705	33,157	33,494			
販管費	27,027	27,280	29,155	27,160	27,731			
人件費	7,693	7,037	8,018	6,541	7,703			
賃借料	6,535	6,575	6,811	6,862	6,816			
広告宣伝費	1,031	1,476	1,359	1,648	1,225			
減価償却費	1,704	1,726	1,692	1,789	1,559			
委託作業費	2,619	2,350	2,626	2,391	2,557			
販売手数料	2,172	2,164	2,733	2,414	2,523			
その他	5,269	5,950	5,914	5,510	5,345			
営業利益	3,453	4,782	9,549	5,997	5,762			

Appendix
セグメント別業績 – 食品セグメント

(百万円)	2025年度				2026年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
総額売上高	104,951	108,063	111,860	101,291	101,211			
売上高	100,825	103,916	107,237	97,665	97,318			
売上総利益	31,628	32,580	34,002	31,175	31,015			
販管費	29,314	30,265	30,111	28,843	29,269			
人件費	13,158	13,472	13,566	12,873	12,941			
賃借料	4,933	5,004	4,973	4,940	4,914			
広告宣伝費	580	524	674	461	608			
減価償却費	996	985	1,027	1,057	1,013			
委託作業費	1,265	1,354	1,300	1,339	1,392			
販売手数料	942	1,012	1,080	968	950			
その他	7,437	7,911	7,489	7,202	7,448			
営業利益	2,314	2,314	3,890	2,332	1,745			

Appendix

設備投資・減価償却

設備投資

(百万円)	25年度 1Q	26年度 1Q	主な内容	26年度 通期予想
連結合計	6,438	4,656		34,081
百貨店	3,040	642	阪急本店 改装	7,473
食品	957	1,401	食品スーパー 新規出店・改装	7,607
商業施設	273	811	アワーズイン阪急 客室改装・SC改装	4,732
その他	2,244	1,814		14,267
IT・DX	2,021	1,703	H2O システム投資	13,488
連結調整	▲77	▲13		

減価償却費

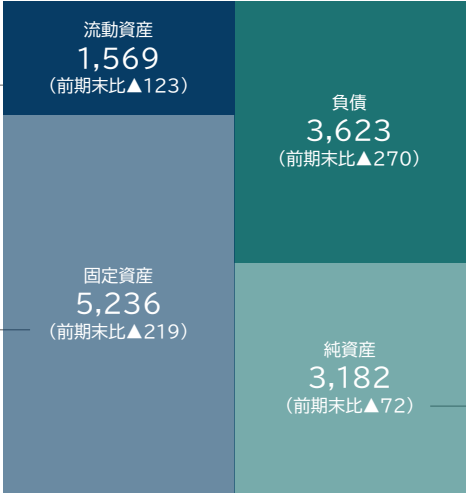
(百万円)	25年度 1Q	26年度 1Q	増減
連結合計	6,086	6,252	+165

▶ 投資有価証券の売却により固定資産・純資産が減少。

総資産6,805(前期末比▲342) (億円)

- <主要な増減>
- 現金及び預金の減少 ▲157
 - 売掛金の増加 +19

- <主要な増減>
- 投資有価証券の減少 ▲190
 - 繰延税金資産の減少 ▲20



- <主要な増減>
- 未払金及び未払法人税等 ▲106
 - 繰延税金負債の減少 ▲80
 - 買掛金の減少 ▲73

- <主要な増減>
- 利益剰余金の増加 +75
 - その他有価証券評価差額金の減少 ▲126
 - 自己株式の増加 ▲39

自己資本比率44%(前期末43%)

2027年3月期 第2四半期 決算発表は、
2026年11月4日を予定しております。

